



校長室だより

きまがせ



令和5年6月12日
野田市立木間ヶ瀬小学校
校長 松藤 有里

算数の力を定着させるために…



今年度、木間ヶ瀬小学校では、どのように授業を進めていくと効果的か、特に算数の研修に取り組んでいます。子どもたちの主体的に考える力を伸ばし、学力を定着させるため、全職員でアイデアを出し合いながら、研修を進めているところです。算数は答えがはっきりしているので、「わかった!」「できた!」と成果を実感しやすい教科です。ほぼ毎日行われている教科でもあるので、子どもたちの意欲が継続していくような声かけを意識していきたいと思います。

つまずきの多い単元としては、「分数」が挙げられます。中学生になってからも、分数の理解ができておらず、苦勞しているという話をよく聞きます。また、特に、2年生で学習する「かけ算九九」は、その先の様々な単元につながる大事な内容です。

そこで、6年生から順番にかけ算九九検定を始めます。

まずは、1～9の段をすらすらと間違えずに暗唱できるか、一人ひとりに挑戦してもらいます。さらに、ばらばらに提示した九九の答えをすぐに言えるかどうか、レベルを上げた九九検定も実施します。これは、わり算の商を立てるときに、九九を始めから順に思い出して行って答えにたどり着くのではなく、瞬時に数字がひらめくようになってほしいからです。

1、2年生は、かけ算九九は、まだ学習していませんが、「10はいくつといくつか」、瞬時に答えられることがとても大切です。「『4。』と言ったら、『6!』」「『2。』と言ったら、『8!』」と間髪入れずに答えることができる、そんな簡単なことの繰り返しをご家庭での会話の中に入れてみてください。

「継続は力なり」という通り、続けることは必ず自分の力になります。

小さなことからコツコツと、積み重ねていけるよう、学校でも指導を続けていきます。

